

タイトル：徳川家霊台

9世紀に弘法大師により設立されてから、高野山は様々な社会的地位の人を迎え入れています。中世日本では武士も多く訪れました。1623年から1651年まで日本を治めていた第3代将軍の徳川家光(1604-1651)が、1643年に徳川家霊台を作りました。家光は、日本を統一し徳川幕府を設立した祖父の徳川家康将軍(1543-1616)、そして父親の徳川秀忠将軍(1579-1632)を納めるために建立しました。

霊廟に向かって右手側は家康に、左手側は秀忠に捧げられています。実際にはこの霊台に埋葬されているわけではありませんが、これらの建物は重要文化財として国に認定されており、日本の歴史においても重要な人物である2人の記念碑です。以前、霊廟の東端には、それ以降の世代の徳川家のために尊牌堂がありましたが、1888年に火災で焼滅し、再建されることはありませんでした。

この二つの建物は、数多くの精巧な彫刻、そして美しい金属細工が施された江戸時代(1603-1867)の霊廟建築の良い例です。これらの飾りは、建築の優雅な線を活かし強調するためにありました。優雅な線というのは、縁側や手すり、入口の上にある破風板、そして、屋根の先端部にある露盤である屋根が合わさる箇所です。

一般公開はされていませんが、それぞれの霊台の内装も全面、巧みに、そして入念に飾りつけられました。金の上塗り、精巧な彫刻、鮮やかな絵画 — 全て、家康と秀忠という2人の将軍に敬意を表すためです。